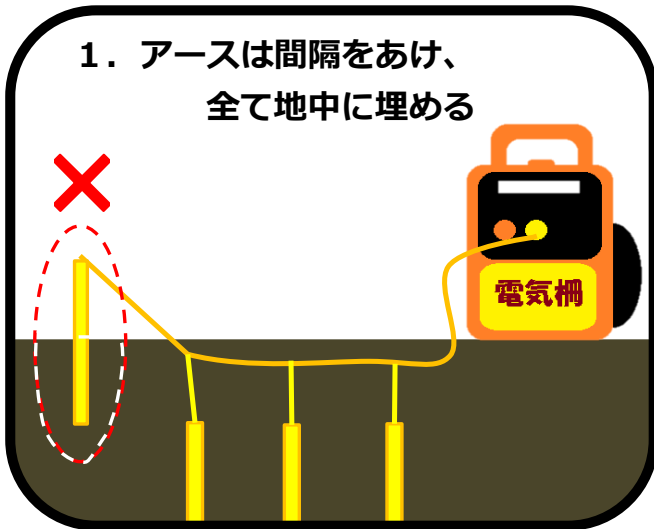


電気柵を設置した後のチェックポイント

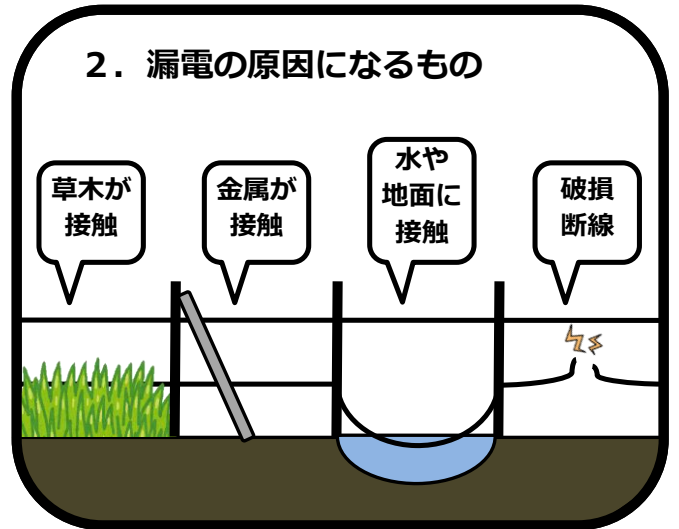
- 1. アースを正しく設置している
- 2. 漏電対策をしてある
- 3. 線を張りすぎていない
- 4. 斜面に設置していない
- 5. 電柵を張った場所を整地してある
- 6. 24時間通電にしてある

☆ チェックのつかなかった番号は、下の絵を見て対応を確認してください ☆

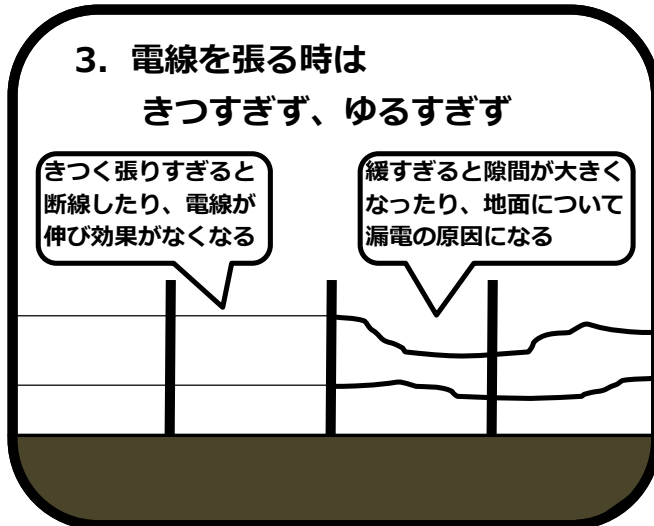
1. アースは間隔をあけ、 全て地中に埋める



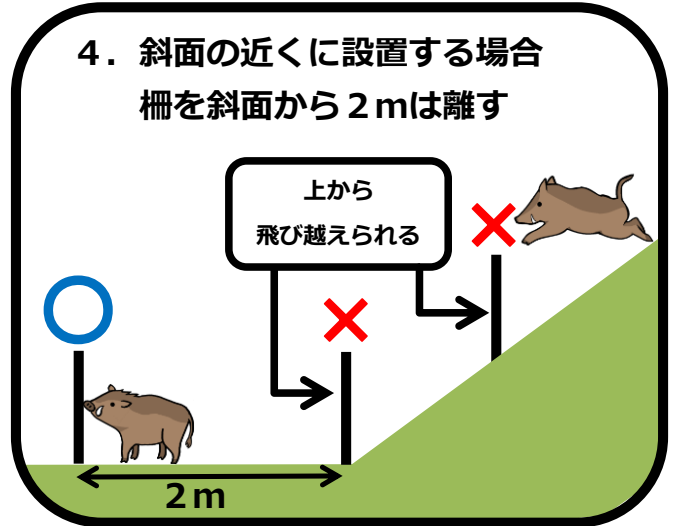
2. 漏電の原因になるもの



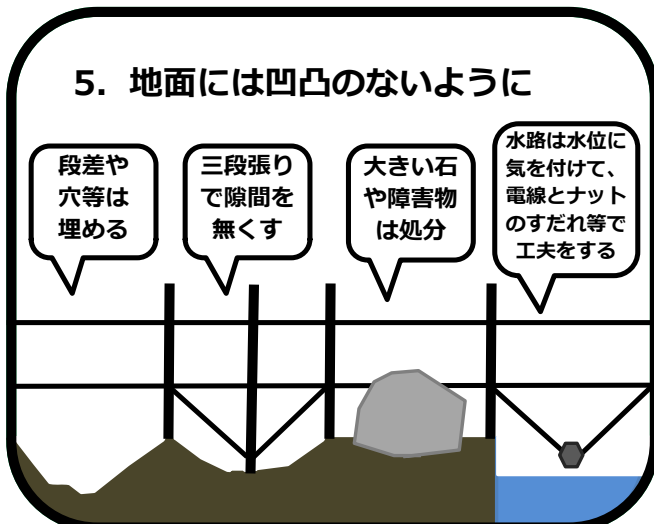
3. 電線を張る時は きつすぎず、ゆるすぎず



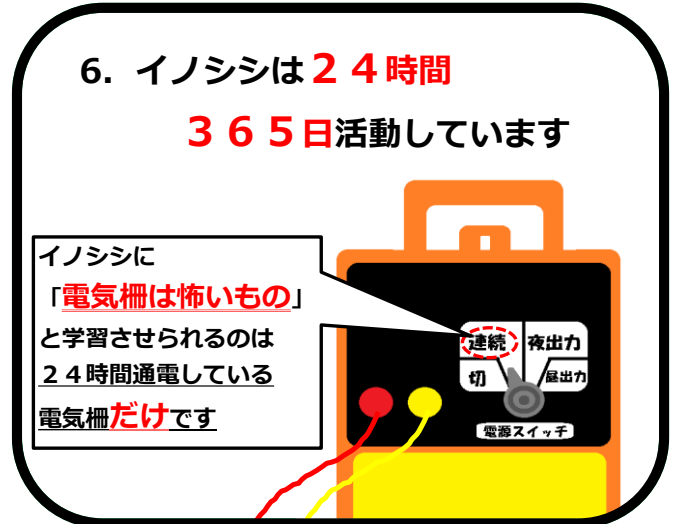
4. 斜面の近くに設置する場合 柵を斜面から2mは離す



5. 地面には凹凸のないように



6. イノシシは24時間 365日活動しています

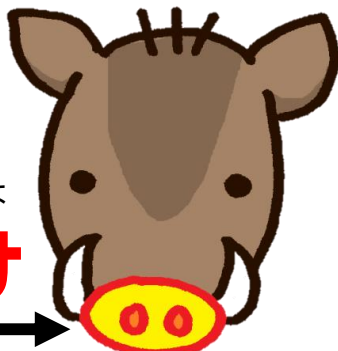


仕組みを理解して、電気柵の効果高めよう

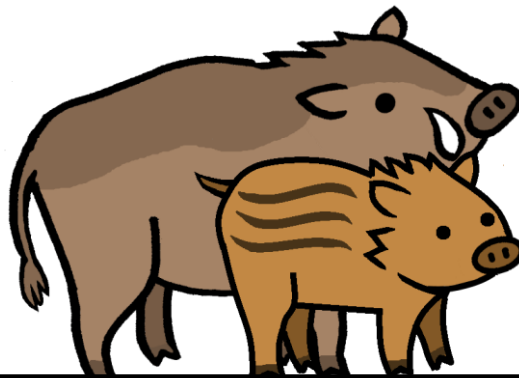
電気を通すのは
鼻だけ



太くて硬い毛に覆われているので
体に電気が当たっても平気なんです



線の高さは20cmと40cm
ちゃんと理由があります



大人のイノシシ
鼻の高さ
40cm

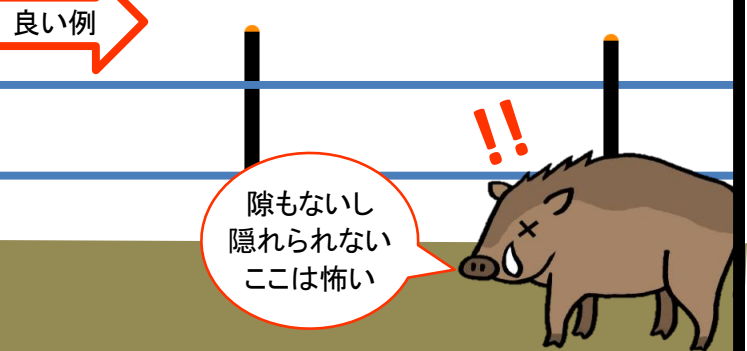
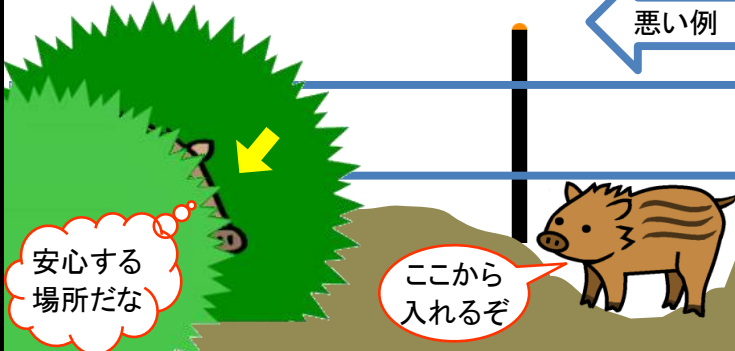
ウリ坊の鼻の高さ
20cm

- ・イノシシは茂みに隠れながら農地に近づきます
- ・電柵を設置する地面は整地が必須です

- ・電柵の前後1mは何もないように環境整備を！
- ・地面に凹凸があると電線が鼻にあたりにません

悪い例

良い例



- ・地面がアスファルト等の絶縁体になっていると、電圧は半分以下まで下がり、イノシシには効きません
- ・電柵から作物の距離が近かったり、作物が線の外まで出ていると、イノシシが農地に執着します

- ・電柵を設置する場所は土が必須です
- ・コンクリートで囲まれた農地は農地の内側を整備後に設置したり、電気柵以外の防護柵を検討しましょう
- ・農地を守る為には設置前の環境整備が大切です

悪い例

良い例



防護柵は張った後の管理こそ大事!! 張ったからと安心してはいけません。

- ①イノシシは24時間365日行動しているので電源も24時間365日つけましょう
- ②必要な電圧は最低4000V。電圧が下がっていないか、定期的にチェックをしましょう
- ③定期的な草刈を行うなどして、漏電の原因になるものを無くしましょう
- ④アースは電気柵の命! 一本一本を離して、根元までしっかりと土に刺しましょう
※草刈の邪魔にならないように、線まで全て土の中に埋めることをおすすめします

電気柵

